されし後つて阿部豊一氏（大阪毎日新聞社）より謝辞があつて引き続き十時アラスカにて會員一同夕食を共にした。出席者は中山太一氏外二十一名であつた。

勞務管理研究會例會

三月十一日午後一時より大阪市北區中之島朝日ビル五階會議室に於て開催。會員四十名出席した。

鈴木常任幹事挨拶、松村支所長より紹介の後、美濃口金融院調査官より總動員法に就て講話あり、總動員法中勞働統制に就て感想を述べられ我國の將來勞働問題の重大性を強調せられ、次いで山中東京商大助教授より職爭と勞働の題下に職爭發生と共に起る勞働力に關する具體的問題に就て詳述せられ最後に工場委員制度に論及し會員一同に多大の感激を與へた、鈴木幹事より二講師に謝辞を述べて散會した。

勞務管理研究會臨時研究會

三月廿三日午後一時半より大阪府商工會議所に於て開催した。出席者は福助足袋會社荒木節郎氏外三十名であつた。「北支近況に就て」中部防衛司令部岩本少佐より最近の歸國談を拜聽した。講演は他の人では承ることの出來ない具體的な事例を詳細説明されたので會員の質問も盛況を呈して得る所多かつた。

事業主懇談會

勤勞者教育大阪地方部、本會支所共同主催で、三月十七、八日の兩日に亘つて、事業主懇談會を大阪府北河内郡妄野村修業國場西道場で行つた。集まる所の人々は大工場の事業主、工場長、勞務責任者等六十餘名、頗る盛會であつた。十七日は、午後四時半開挨拶を述べられた後、大阪市立都島工業學校若生大四郎氏より組織教育の講話を頂ひ、同氏を中心として懇談を爲した。七時半より十時迄久保中佐の總動員法に就て、總合國力の發揮、國民最高道義、總動員法の精神、時局と軍需動員の各問題に亘り熱心なる講話を拜聽した。十時半、道場主宰横本藤實氏の指揮の下に夜の行事を行つて就床した。十八日は午前五時半に起床して、或は「御殿」を戴修、或は道場の掃除をなし、其後朝の行事を行つた。八時より二時間に亘り、厚生省參與吉良俊蔵氏より時局と勞働問題を聽講、種々座談をなして十一時閉會した。

三都會例會

三月十九日午後五時より綿業會館六階に於て開催した。出席者は中山製鋼佐藤勇氏外十名であつた。

先づ松村支所長より陸軍省厳倫課久保中佐を紹介、久保中佐より總動員法の精神に就て詳細なる説明があつた。活潑なる質疑應答の後夕食を共にし食後更に陸軍勞務官理に就てお話を拝聽して散會した。

關西民藝協議會懇談研究會

本部例會

三月十八日午後六時より大阪青年熱堂に於て「日の本少女」に就て本會場託井上光氏より「四季の日本」に就て講習を受けた。出席者六十名盛況であつた。

京都支部

三月十日午後六時半より京都市西神織物同業組合に於て開催、本會場託井上光氏より「四季の日本」に就て講習を受けた。出席者六十名盛況であつた。

名古屋出張所

勞務管理職員研究會

本會名古屋出張所に於て、今回管下所在工場の勞務を擔當せる中堅職員を目標として勞務管理教育を行ふため、勞務管理職員研究會を設立した。三月八日午後一時半より、其の第一回の會合を名古屋市中區白金町名古屋市社會館に於て開催した。本部より參事長谷崎氏を招き、職時下の勞務管理問題を論講、種々質疑應答研究を爲した。

其後研究會の進行強化等に關し一同懇談を爲し、愛會裡に散會した。出席者六十餘名。

勞務管理研究會

三月十一日午後二時より名古屋市中區南大津町中央亭に於て開催、出席者四〇名であつた。先づ大澤出張所長挨拶の後、川崎造船所厚利課長大塚好氏より本會時局對策委員會の概要を紹介し職時下に於ける勞働對策に就いて各角度より説明論究し、更に氏の提唱せられた社會奉金制度に論及、實際家のこと、して其の説くところは直ちに各勞務管理に應用し得るところ多く、頗る感銘を與へた。終つて夕食を共にし工場課の沼田事務官より、ハルビンの情況の説明を聴いた。

安全映畫映寫

東邦電力株式會社名古屋支店に於て同社名古屋製變所主催を以て安全映畫映寫をなすことゝなつたので、本會製作安全映畫抗底の提唱を賛助し援助した。三月十四日岡崎支店十五日岐阜支店、十六日一宮支店、十七日名古屋火力發電所に於て夫々映寫され歓迎を受けた。

福岡出張所

體育指導者講習會

福岡縣　本會福岡出張所、福岡縣健康保險課の共同主催で三月一日午前九時より大牟田市三井鑛山株式會社三池鑛業所に於て開催した。本會場託赤間雅彦氏より愛國行進曲に就て實地指導を受けた。參加者は三池鑛業所勤勞女學園生徒三百名で盛況であつた。

大分縣　三月二、三の兩日に亘り、縣當局と本會との共同主催で、大分市公會堂に於て開催、日本人造羊毛大分工場外十九工場より男女從業員六十六名が參加した。第二日は大分縣保安課長開會の辞を述べ、本會場託赤間雅彦氏が愛國行進曲、產業報國歌に就き指導を爲し、本會福岡出張所長清原進氏より「勞務管理より見たる保健問題と戦時增産」なる講演があつた。第二日は赤間場託より見たる保健問題と戦時增産」に就て指導を受け一同滿腔の態であつた。

福岡地方常任委員會設置

本會福岡出張所に於て、今般福利委員中より常任委員十六名を選任し、常任委員會は毎月開催し、出張所事業の重要問題に付協議研究するものである。

常任委員氏名左の通りである。

株式會社渡邊鐵工所　喬裾　榮吉氏
勞務課長
日本ゴム株式會社　長野　頼男氏
人事課長
合名會社岡部鐵工所　岡部　榮氏
所長
大日本製糖株式會社大里工場　勞務係長
陸軍造兵廠小倉工廠　蒙崎憲太郎氏
人事掛長　稲葉　晋氏
明治紡績合資會社　山本　季男氏
庶務部長
日本製鐵株式會社八幡製鐵所　鶴谷　光辛氏
次長
日本化成工業株式會社　加藤岩二郎氏
勞務係主任
貝島炭礦株式會社大之浦炭礦　田中孟之助氏
勞務課長
明治鑛業株式會社　宗近　鶚介氏
參事
三井鑛山株式會社田川鑛業所　占部　保氏
勞務主任
三菱鑛業株式會社筑豊鑛業所　櫛　長　高木　作太氏
三井鑛山株式會社三池鑛業所　瀧原　豐氏
勞務課長
海軍燃料廠採炭部　久良木利一氏
勞務主任
筑豊石炭鑛業會　吉見　實氏
幹事
協調會福岡出張所　清原　進氏
所長

編輯後記

○時局對策委員會の結晶成る！、其の眼目は、傷痍軍人對策に於ては共感同情の至念を永く昂揚し取扱の狙一機械的なるを廃し實情に即せしめたに在り、勞資調整方策に於ては階級對立觀念を完全に撤廃し勞資一體、產業報公の精神を鼓吹し勞資間の空氣を明朗にする事から始めんとするに在る。

○長岡當務理事の「傷痍軍人迎ふるに當りて」は共感同情の至念脈々と流れて人の心を動かす名篇。協調會の偽装軍人對策の根本精神を說いて盡くして居る。

○細野氏の「英國外交の動向」、ジョンアルの老獪筆果して日本を孤立に陥としいる事を得るや否や！

○吉良氏は人も知る碩學「厚生運動の提唱」は平易にして、何と合點多き事よ！

○西氏の「厚生運動管見」吉良氏と相並んだ好文字、其の特徴は精密周到なる考察にある。前田氏の「主婦教育の辞」も一中小工業問題對策を講じて指手と雖も見逃して居らない。倉島氏の「時局と國防圖書館」有效な獻策である。各國書館で本を出し合へば直ちに實現出來ると思ふが如何？

☆

●前號編輯後記誤植左の如く訂正致します。

敬神と尊皇とは一にして二ではない。

○細野氏、吉良氏の御原稿は紙面の都合に依り多小削除修正致しました。

御覧を乞ひます。

☆

○三月十二日第一四合合を福岡市廣院堀端福岡銀行集會所開催上に於て開催、滿支產業從勞働非情視察に關する件、產業宣揚に關する事項、映畫推出張映寫會開催に關する件を協議した。

協調
編輯人兼發行人　東京市麹町區永田町二丁目十番地　町田辰次郎
印刷人　東京市麹町區永田町二丁目十番地　川口印刷所
發行所　東京市麹町區永田町二丁目十番地　協調會
電話麹町（二）一三一一
振替口座東京五三七〇四
毎月一回十五日發行
定價一部金五錢

時局と青年勞働者の使命

協調會常務理事　町田辰次郎

今や我が國は、支那事變を契機として、有史以來の歴史的試錬を經驗しつゝある。その意義の深刻なる點に於て、その規模の廣大なる點に於て、我が國が今日迄遭遇せる國難中の最大なるものであつて、日本國民は正しく興亡の岐路に立つてゐると云へる。而して今次事變の出兵の目的を達成し、有終の美を收めるの努力は寧ろ今後に屬する。この未曾有の試錬を克服し、支那事變の歴史的意義を實現するためには、内にあつては全國民が一致協力し、各々分に應じて聖公の誠を致し、外にあつては大義を四海に布いて正しき平和を打ち建つべきであつて、この天與の大使命と大責任の遂行こそ我が皇國民全體の光榮ある本務でなければならぬ。この自覺と努力なければ即ち已む、國民の胸奥より眞の發奮湧き出でゝ、此の大使命遂行に協力邁進するならば、今日の深憂は轉じて明日の歡喜を生み出すに至るであらう。

今や外「武」に任ずるの皇軍は北に南に生命を賭して戰ひ、連戰連勝皇威を四海に輝かしてゐる。内「文」に任ずる者も「產」に從事するものも、共に皇國の大理想達成のため、各々職分を通じて最善の努力に勵まねばならぬ。この銃後の護り堅からずんば、折角の皇軍の武威も、十全なる成果を收めるに至はできない。「武」と「文」と「產」が相協力して各々その最高能力を發揮するところに、國難打開の鍵が存し、國民精神總動員の眞價が發揚される。況んや事變が長期戰に入り、事態が深刻化しつゝある今日に於て尚更の事である。

產業が文武活動の培養母胎であり、その源泉なるは喋々するまでもないところであらう。特に產業の充實發展なくしては戰爭目的の遂行は到底不可能である。そこに銃後の護りとしての產業充實が第一條件に擧げらるゝ所以がある。歐洲大戰中におけるロシア、大戰後におけるドイツの大悲劇が、一に國内產業不安に因由せることを想起する時、戰時戰後における產業人の使命と責任が如何に重大であるかは言をまたない所であらう。

而もその產業の基礎は勞働にあるとは言はねばならぬ。

次に青年が國家活力の源泉たる事は、古今東西を問はず嚴たる事實である。その源泉たる青年の意氣が衰退するならば、國力も亦衰頽する。此の事は東西の歴史と現狀が何より雄辯に物語つてゐる通りである。洵に青年こそ國家の興隆今の愛はこの青年諸君の氣魄、意氣の如何に懸かつてゐると云ふも過言ではない。即ち青年諸君に對して國民的自覺が要求せられ奮起が促されるの所以である。敗惨のどん底にあつた獨逸の今日の興隆發展が青年層における熱烈なる愛國の至情と力に負ふ所が如何に多かつたか、特にアルバイト・ディンスト（勞働奉仕團）が如何に獨逸產業の勃興と國家興隆に貢獻したか。又ヒットラーの期待がその運動に對して如何に大なるかを見るとき、又盟邦伊太利が赤魔蹂躙の疲弊下から今日の赫々たる光威を歐洲の天地に輝かしつつある現狀に思ひ致すとき、青年諸君は就中我が國の青年勞働者諸君は、諸君等の擔へる使命と地位と責任が如何に崇高重大なるかを直ちに感得し得られると思ふ。青年勞働者諸君は、この意味に於て、外に於て聖戰第一線に立てる忠勇なる軍隊と同じく、内に於て國家を支ふる第一線部隊である。而して青年勞働者諸君は、勞働者の中核的存在である。產業を維持向上せしむる中樞神經である。

從つて青年勞働者諸君は次の諸點に對して認識を新たにし、自覺せられんことを切望して止まない次第である。即ち第一には日本の今日の國際的地位が如何に困難であり、且つその國際的使命が如何に重大であるかを十分認識することである。第二には、戰爭目的の遂行が單に皇軍の武力のみ能でなく、どうしてもそれは國家產業の充實發展と相俟つてなされねばならぬもので、恰もそれは車の兩輪の如き關係にあること、第三に產業の充實發展は勞働の最高能力の發揮が基礎となるのであるから勞働者諸君の自覺と努力如何が產業興隆の鍵であると云へるのであつて勞働者諸君はその鍵を握つてゐる重要なる地位にある事、第四には、特に青年諸君は前述の如く國力の源泉であり就中青年勞働者諸君は產業と國家の支柱をなしてゐること等、以上の諸點に思ひを致すならば諸君の使命は自ら判然たるものがあらう。

之を要するに我が青年勞働者諸君に希望することは、重要なる今日の時局と諸君の地位とに鑑み、自己の職場を嚴守し任務を貫ひ、徳を磨き、技術を練り、勞働の上に國苦に堪へて正天錬磨を怠らず自己の職分と勞働に一身を打込んで敢き度い。これ即ち國内に於ける諸君の國恩に報ずる最大の奉公であり、國内內產業に於ける忠勇なる陛下の股肱の臣となる所以でもつて、戰地にあつて身命を鴻毛の輕きに置いて奮戦してゐる忠勇なる皇軍將士と同じく國に報ゆる最大なる責務であるからである。

進ム若ヒ勞働者に仕ヘシ

（除興協同組縣崎宮）